

第2章 世帯タイプと就労状況

1. 世帯タイプ

八王子市の子どもの世帯タイプを「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」に分け、学年別に集計した。

小学5年生、中学2年生ともに、約8割の子どもはふたり親世帯であり、小学5年生では87.3%、中学2年生では85.4%がこの世帯タイプであった。前回調査(H29)と比較すると小学5年生と中学2年生ともにふたり親世帯の減少傾向が見られた。

小学5年生では10.9%、中学2年生では12.3%の子どもがひとり親世帯に育っている。前回調査(H29)と比較すると小学5年生と中学2年生ともにひとり親世帯の割合の増加が見られた。

図表 2-1-1 世帯タイプ(小学5年生・中学2年生)

	小学5年生		中学2年生	
	八王子市 (R4)	八王子市 (H29)	八王子市 (R4)	八王子市 (H29)
ふたり親世帯	3,074	1,475	2,703	1,113
	87.3%	90.8%	85.4%	88.3%
ひとり親世帯	382	135	388	134
	10.9%	8.4%	12.3%	10.6%
その他の世帯	63	15	73	13
	1.8%	0.9%	2.3%	1.0%

2. 父母の就労状況

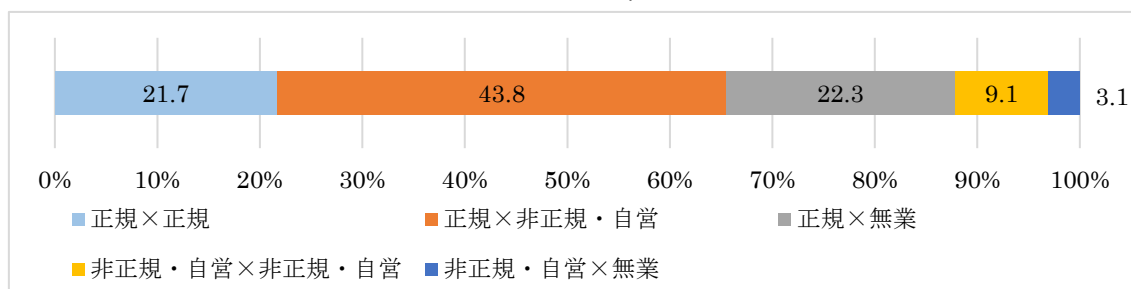
父母の就労状況について別々に確認する前に、まず両親の就労状況の組み合わせについて確認する(ここではふたり親世帯に限定する)。保護者票の問8「お子さんのお父さまのご職業は、次のどれに最も近いですか。」及び問9「お子さんのお母さまのご職業は、次のどれに最も近いですか。」という設問では「緊急事態宣言が初めて発出された直前(令和2年(2020年)3月)時点」と「現在」の2時点について「常勤・正規職員」「パート・アルバイト・非正規」「自営業・家業」「その他の職業」「家事専業」「学生」「無職」「その他」の8つの選択肢から回答するようになっている。

ここでは、〈正規〉は「常勤・正規職員」、〈非正規〉は「パート・アルバイト・非正規」、〈自営・その他〉は「自営業・家業」・「その他の職業」、〈無業〉は「家事専業」・「学生」・「無職」、〈無回答〉は「その他」・「無回答」を合わせたものとし、両親の就労状況の組み合わせを〈正規×正規〉〈正規×非正規・自営〉〈正規×無業〉〈非正規・自営×非正規・自営〉〈非正規・自営×無業〉の5つに分類し

た。

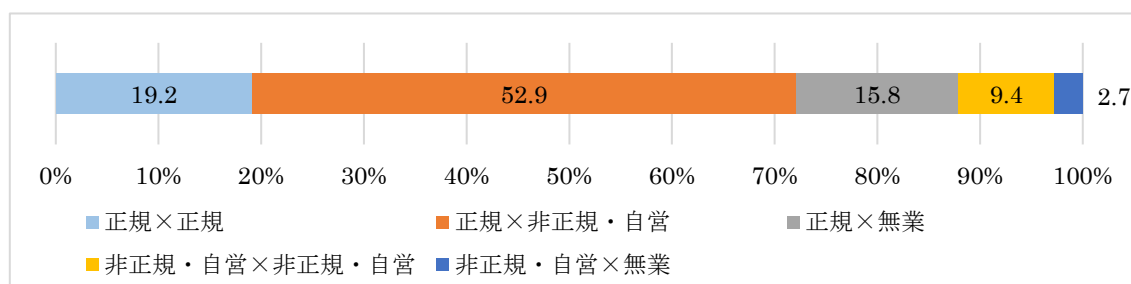
小学 5 年生、中学 2 年生ともに〈正規×非正規・自営〉の割合がもっとも高く、それぞれ 43.8%、52.9%であった。〈正規×正規〉は、小学 5 年生、中学 2 年生ともに約 2 割となっている。一方、〈正規×無業〉の割合は、小学 5 年生の方が中学 2 年生よりも多くなっており、それぞれ 22.3%、15.8%であった。〈非正規・自営×非正規・自営〉の正規就労をしている親がいない世帯は、小学 5 年生は 9.1%、中学 2 年生は 9.4%となっている。

図表 2-2-1 両親の就労状況(小学 5 年生)(n=2,822)



※ふたり親世帯以外や、両親どちらかが無回答である場合は、欠損扱いとする。

図表 2-2-2 両親の就労状況(中学 2 年生)(n=2,522)



※ふたり親世帯以外や、両親どちらかが無回答である場合は、欠損扱いとする。

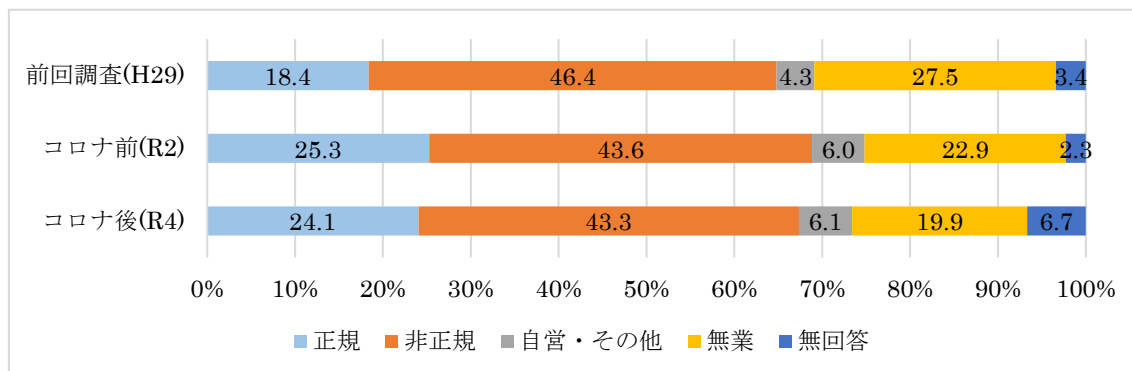
(2)母親の就労状況

母親の就労状況について、令和 2 年 3 月(コロナウイルス感染拡大前、以下「コロナ前」)および令和 4 年 5 月(コロナウイルス感染拡大後、以下「コロナ後」)の 2 時点の状況を比較した。

小学 5 年生の母親全体としては、令和 2 年 3 月時点においては、〈正規〉が 25.3%、〈非正規〉が 43.6%、〈自営・その他〉が 6.0%、〈無業〉が 22.9%となっている。一方、令和 4 年 5 月の時点では、〈正規〉が 24.1%、〈非正規〉が 43.3%、〈自営・その他〉が 6.1%、〈無業〉が 19.9%となっている。コロナ後において、「無回答」が多くなっているが、これは調査票の設計上、コロナ前の方のみ回答した回答者がいたためと考えられる。「無回答」を除くと、コロナ前とコロナ後の大きな変化は見られなかった。なお、前回調査(H29)では〈正規〉が 18.4%、〈非正規〉が 46.4%、〈自営・その他〉が 4.3%、〈無業〉が 27.5%であった。

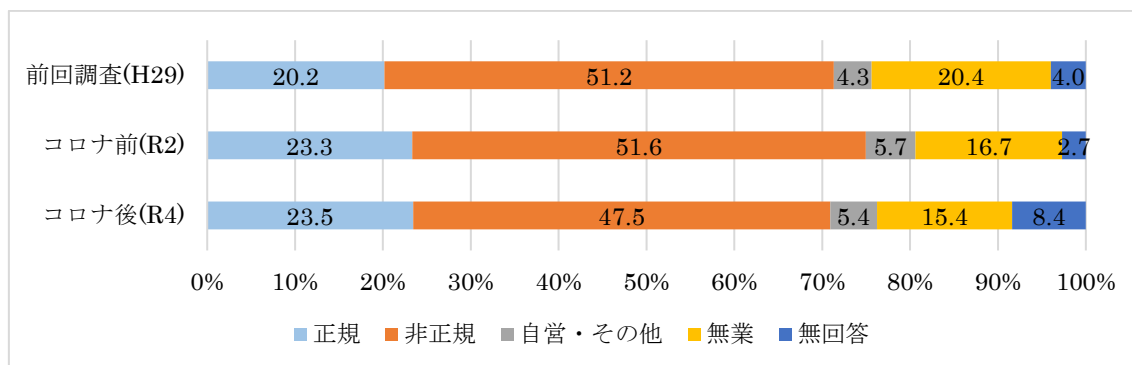
中学 2 年生の母親では、コロナ前は〈正規〉が 23.3%、〈非正規〉が 51.6%、〈自営・その他〉が 5.7%、〈無業〉が 16.7%、コロナ後は、〈正規〉が 23.5%、〈非正規〉が 47.5%、〈自営・その他〉が 5.4%、〈無業〉が 15.4%となっている。なお、前回調査(H29)では〈正規〉が 20.2%、〈非正規〉が 51.2%、〈自営・その他〉が 4.3%、〈無業〉が 20.4%であった。

図表 2-2-3 母親の就労状況(小学 5 年生)



※〈正規〉は「常勤・正規職員」、〈非正規〉は「パート・アルバイト・非正規」、〈自営・その他〉は「自営業・家業」・「その他の職業」、〈無業〉は「家事専業」・「学生」・「無職」、〈無回答〉は「その他」・「無回答」であり、以下父親・母親の就労状況の作表において同様。

図表 2-2-4 母親の就労状況(中学 2 年生)

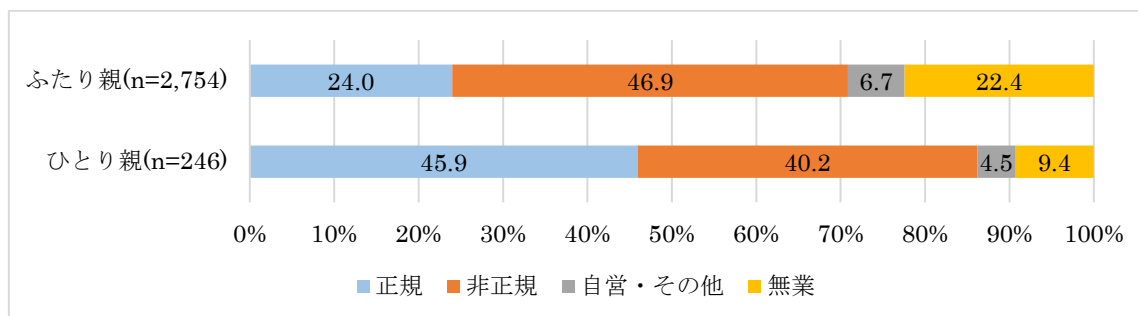


母親の就労状況は、世帯タイプ別において大きな差があるため、ここでは、世帯タイプ別の集計を行う。なお、世帯タイプによって無回答の差が大きかったため、ここからは、無回答を除く集計を行う。

小学 5 年生では、〈正規〉の母親は、ふたり親世帯で 24.0%に対して、ひとり親世帯で 46.9%であり、22.9 ポイント差でひとり親世帯の母親の〈正規〉の割合が高い。また、〈無業〉の母親は、ふたり親世帯で 22.4%に対して、ひとり親世帯で 9.4%であり、13.0 ポイント差でふたり親世帯の母親の〈無業〉の割合が高い。

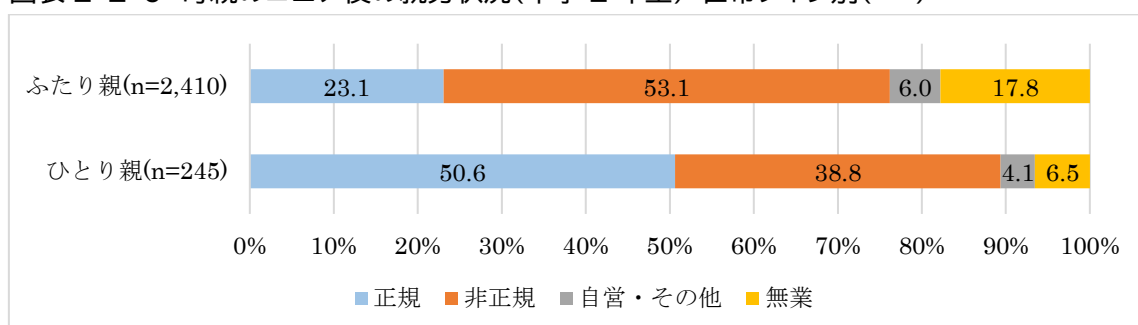
中学 2 年生では、〈正規〉の母親は、ふたり親世帯で 23.1%に対して、ひとり親世帯で 50.6%であり、約 2 倍の差でひとり親世帯の母親の〈正規〉の割合が高い。また、〈無業〉の母親は、ふたり親世帯で 17.8%に対して、ひとり親世帯で 6.5%であり、11.3 ポイント差でふたり親世帯の母親の〈無業〉の割合が高い。

図表 2-2-5 母親のコロナ後の就労状況(小学 5 年生):世帯タイプ別(***)



※母親のいる世帯のみに分析を限定している。無回答の割合が大きいため、欠損処理を行った。

図表 2-2-6 母親のコロナ後の就労状況(中学 2 年生):世帯タイプ別(***)

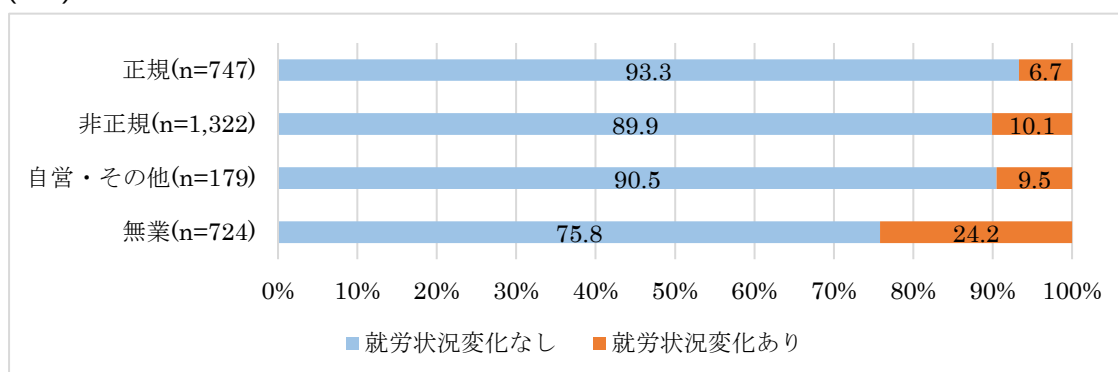


※母親のいる世帯のみに分析を限定している。無回答の割合が大きいため、欠損処理を行った。

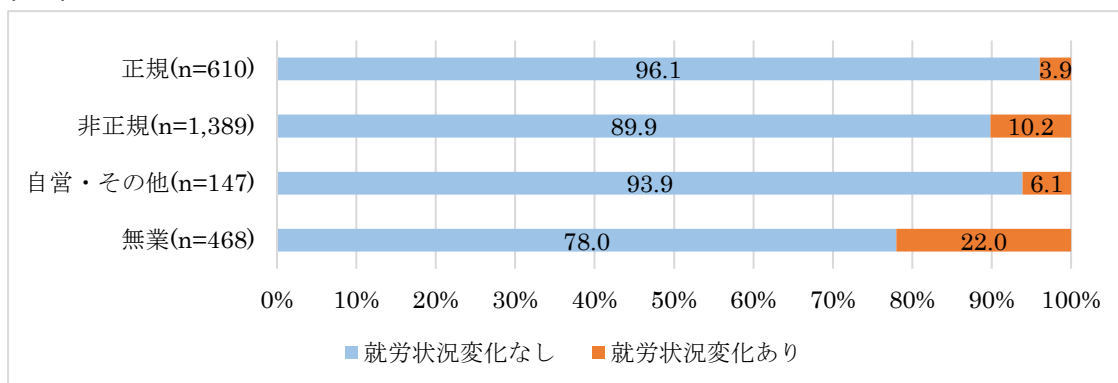
コロナ前後の就労状況の変化を見る。コロナ前後で同じ就労状況を回答しているケースを〈就労状況変化なし〉、異なる就労状況を回答しているケースを〈就労状況変化あり〉として、その割合をコロナ前の就労状況別に見る。

小学 5 年生・中学 2 年生ともに、〈無業〉の 2 割以上の就労状況が変化しており、また〈非正規〉についても 1 割程度の就労状況が変化している。〈自営・その他〉については小学 5 年生の母親で 9.5%、中学 2 年生の母親で 6.1%であり、〈正規〉が最も割合が低く、小学 5 年生の母親で 6.7%、中学 2 年生の母親で 3.9%であった。これらの割合の差は統計的に有意であった。

図表 2-2-7 コロナ前後の母親の就労状況の変化(小学 5 年生):コロナ前の就労状況別(***)

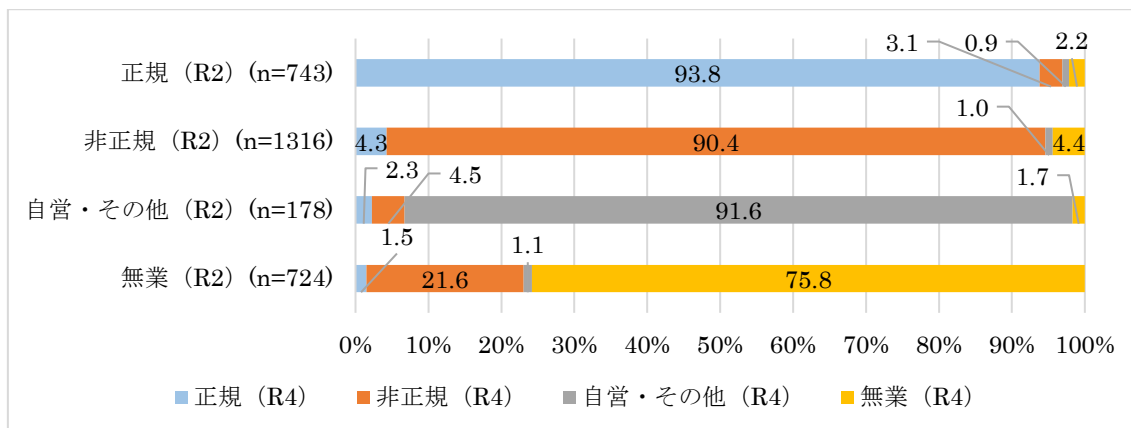


図表 2-2-8 コロナ前後の母親の就労状況の変化(中学 2 年生):コロナ前の就労状況別 (***)

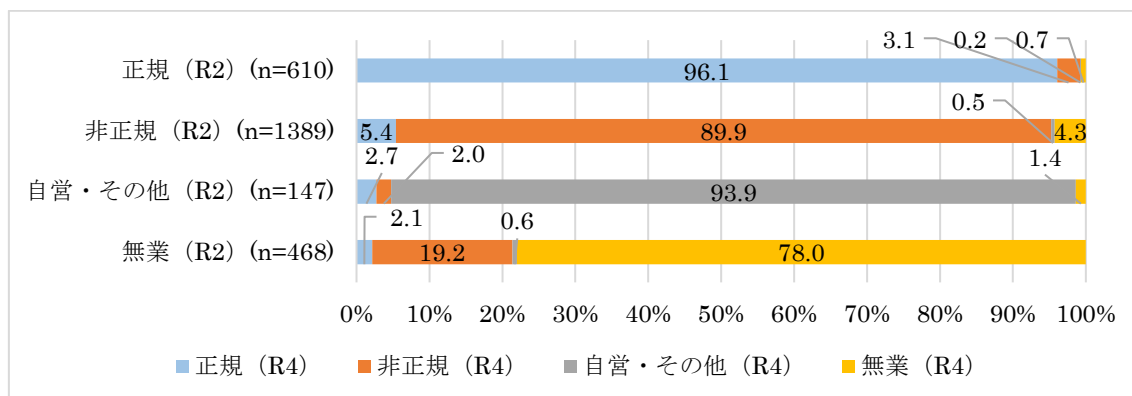


次に、母親の就労状況がコロナ前後にかけてどのように変化したのかを確認する。小学 5 年生、中学 2 年生ともに、コロナ前に〈正規〉だった母親は、9 割以上が就労状況の変化がなかった。また、コロナ前に〈非正規〉、〈自営業・その他〉だった回答者についても、約 9 割の回答者が就労状況の変化がなかった。コロナ前〈正規〉または〈非正規〉だった回答者と比較し、〈無業〉だった母親の就労状況の変化が大きいことがわかった。一方で、〈無業〉だった母親のうち、小学校 5 年生については 21.6%が〈非正規〉になり、中学校 2 年生については 19.2%が〈非正規〉になった。

図表 2-2-9 コロナ後の母親の就労状況(小学 5 年生):コロナ前の母親の就労状況別



図表 2-2-10 コロナ後の母親の就労状況(中学校 2 年生):コロナ前の母親の就労状況別

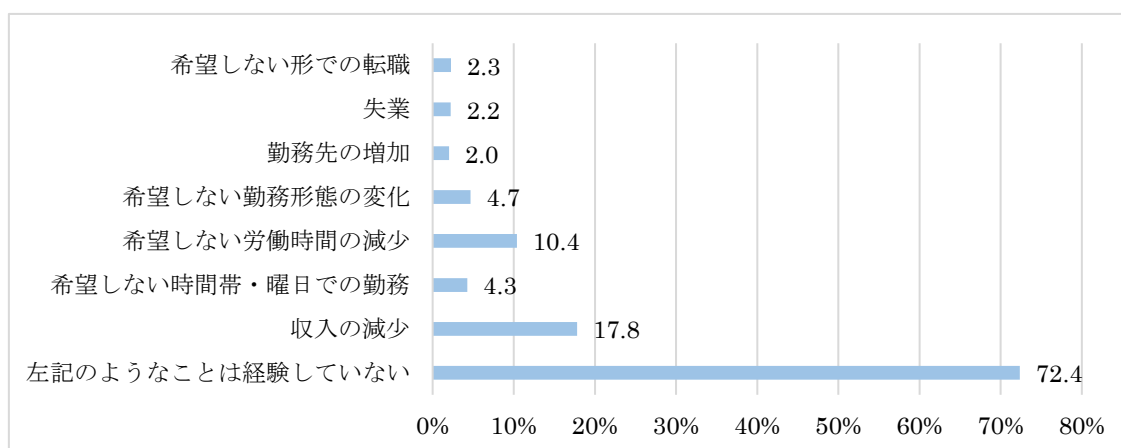


(3)母親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響

次に、保護者票の問 9-2「お子さんのお母さまは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で以下のようなことを経験しましたか。」の設問について集計を行った。

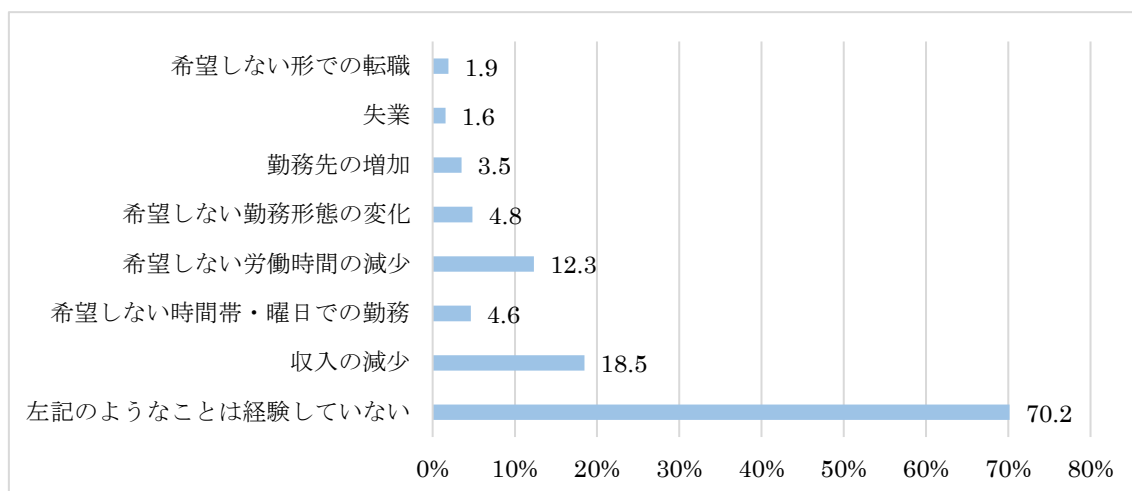
小学 5 年生・中学 2 年生ともに「左記のようなことは経験していない」の割合がもっとも高く、約 7 割となっている。また、「収入の減少」が新型コロナウイルス感染拡大の影響の中ではもっとも割合が高く、小学 5 年生・中学 2 年生ともに約 15%である。次に割合が高い順にあげると、「希望しない労働時間の減少」「希望しない勤務形態の変化」「希望しない時間帯・曜日での勤務」となっている。「希望しない形での転職」「失業」「勤務先の増加」は小学 5 年生・中学 2 年生ともに 3%以下であった。

図表 2-2-11 母親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(小学 5 年生):単純集計 (n=2156)



※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、母親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

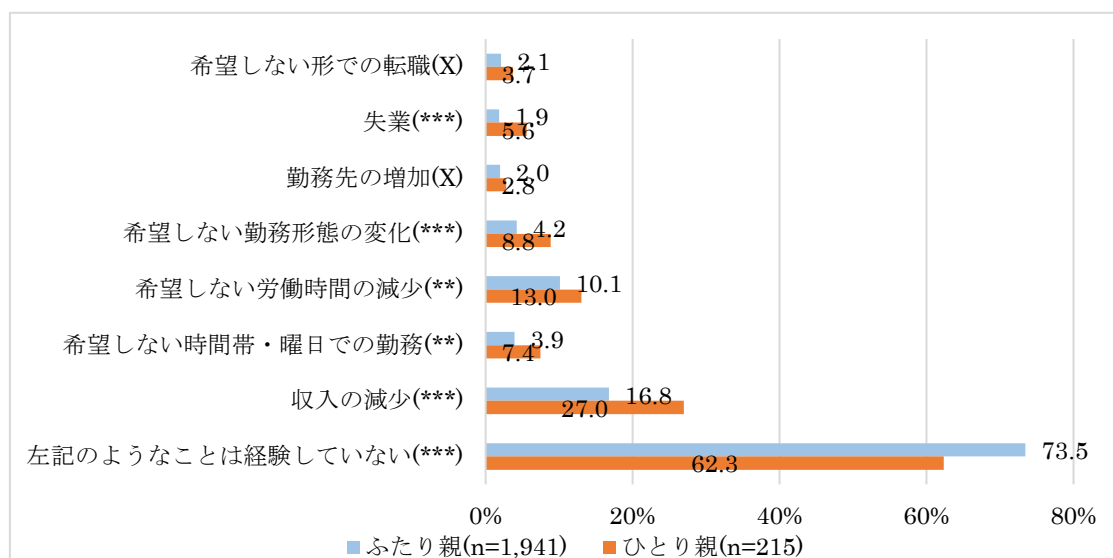
図表 2-2-12 母親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(中学 2 年生):単純集計 (n=1987)



※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、母親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

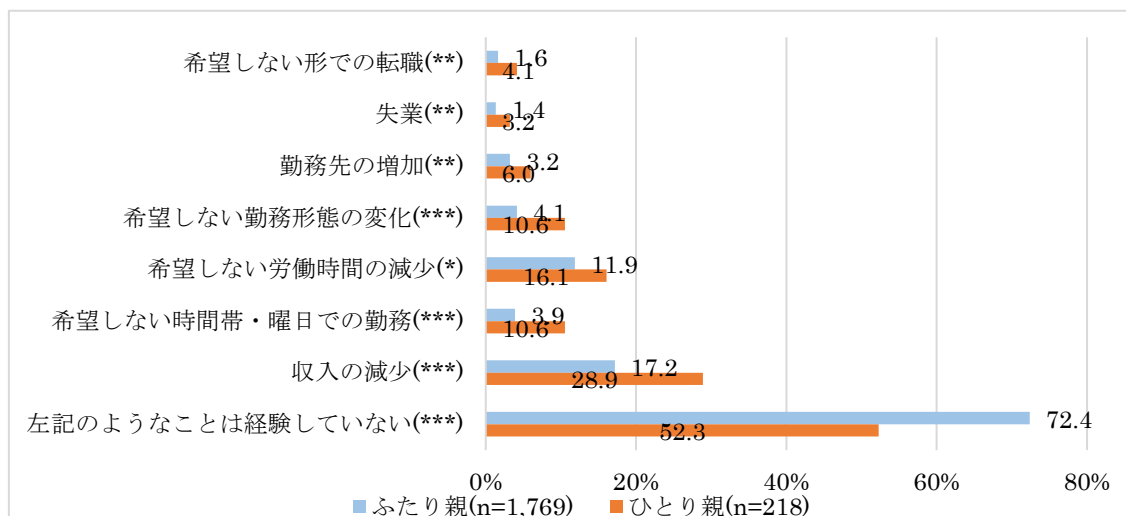
この割合を世帯タイプ別に見ると、小学 5 年生・中学 2 年生ともに「左記のようなことは経験していない」がふたり親に比べひとり親の割合が低く、小学 5 年生では 11.2 ポイント、中学 2 年生では 20.1 ポイントの差がある。「収入の減少」については小学 5 年生・中学 2 年生ともにふたり親に比べひとり親の割合が高く、小学 5 年生では 10.2 ポイント、中学 2 年生では 11.7 ポイントの差がある。また、小学 5 年生・中学 2 年生ともに「失業」「希望しない勤務形態の変化」「希望しない労働時間の減少」「希望しない時間帯・曜日での勤務」について、ふたり親に比べひとり親の割合が高い。「希望しない転職」「勤務先の増加」は中学 2 年生のみ、ふたり親に比べひとり親の割合が高い。

図表 2-2-13 母親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(小学 5 年生):世帯タイプ別



※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、母親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

図表 2-2-14 母親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(中学 2 年生):世帯タイプ別



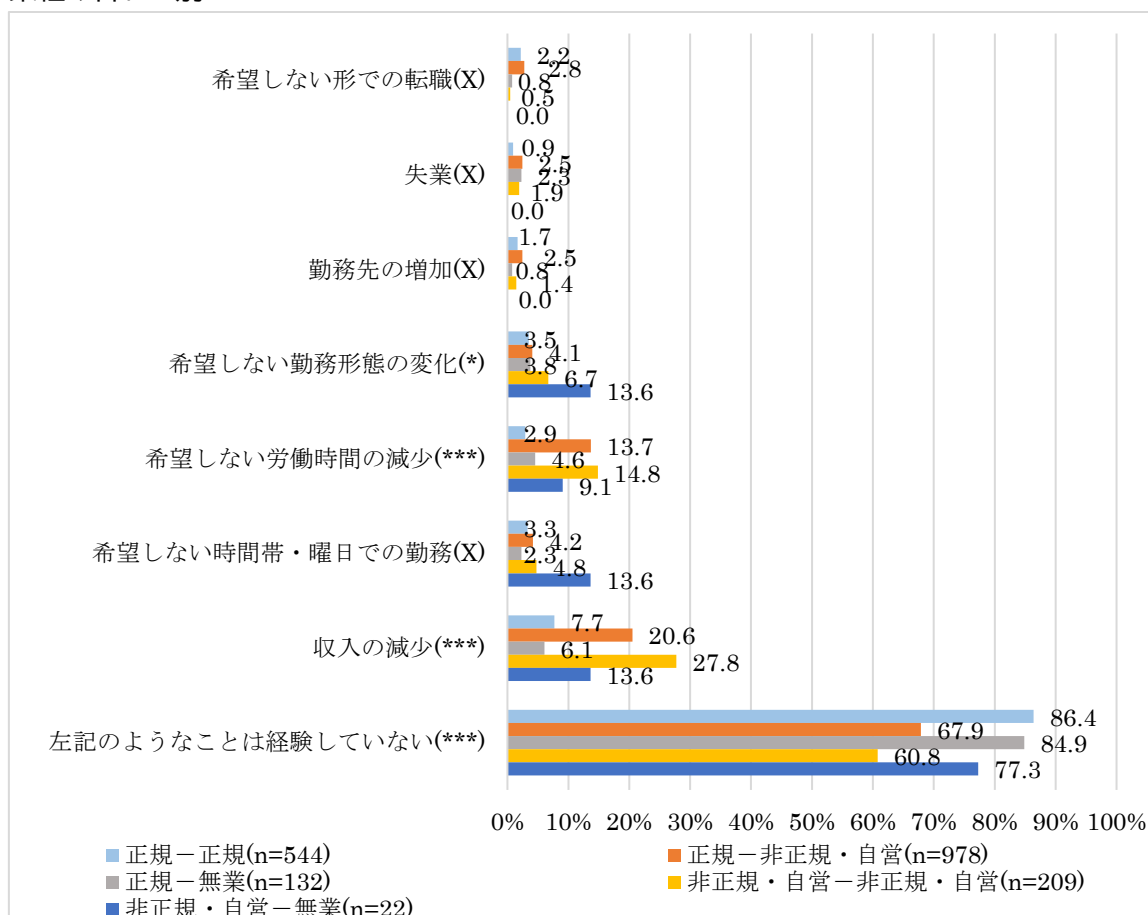
※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、母親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

夫婦の職業組み合わせ別の分析でも、いくつかの新型コロナウイルス感染拡大の影響について差が見られた。小学 5 年生では、「左記のようなことは経験していない」は〈正規—正規〉〈正規—無業〉の割合が高く、〈正規—非正規・自営〉〈非正規・自営—非正規・自営〉の割合が低かった。逆に、「収入の減少」「希望しない労働時間の減少」は〈正規—正規〉〈正規—無業〉の割合が低く、〈正規—非正規・自営〉〈非正規・自営—非正規・自営〉の割合が高かった。「希望しない勤務形態の変化」は〈非正規・自営—無業〉の割合が最も高い。

中学 2 年生では、「左記のようなことは経験していない」は〈正規—正規〉〈正規—無業〉の割合が高く、〈正規—非正規・自営〉〈非正規・自営—非正規・自営〉の割合が低かった。「収入の減少」「希望しない労働時間の変化」は〈正規—正規〉〈正規—無業〉の割合が低く、〈正規—非正規・自営〉〈非正規・自営—非正規・自営〉の割合が高かった。

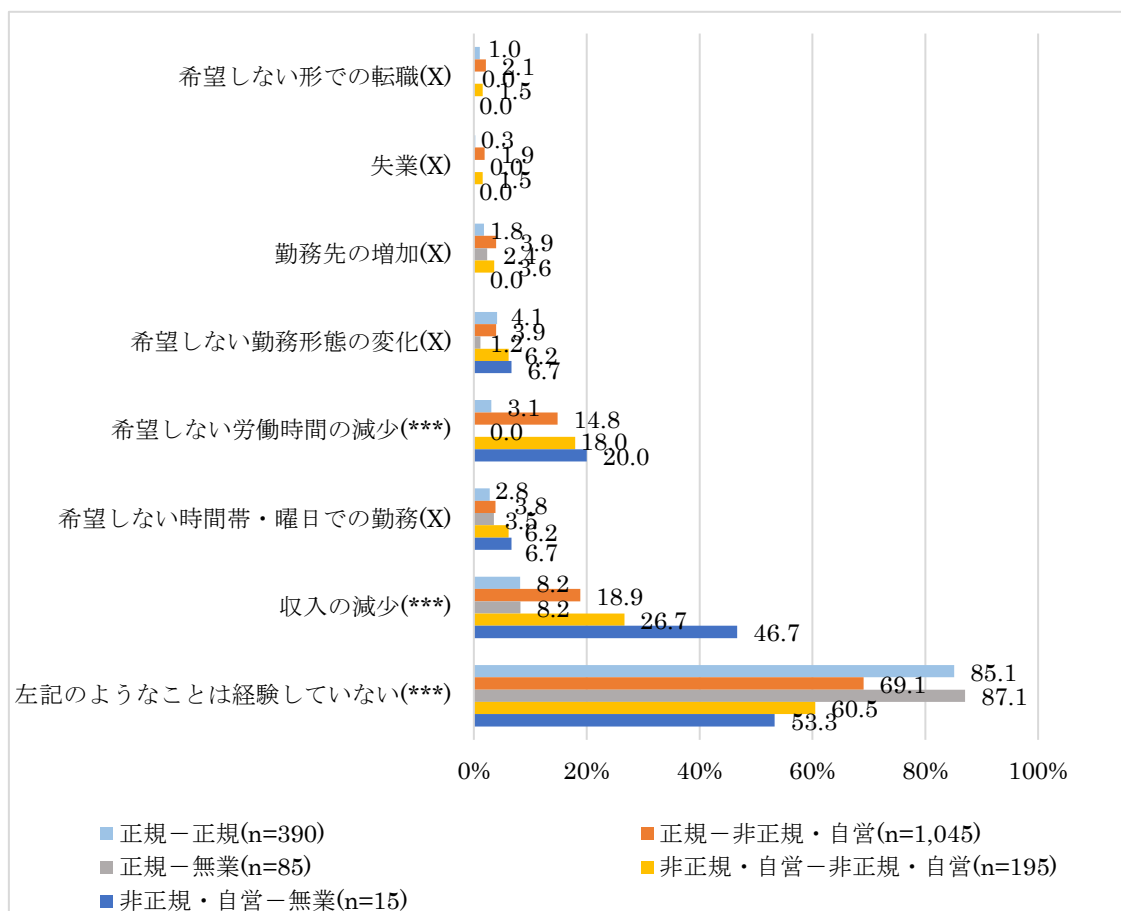
すなわち、小学 5 年生、中学 2 年生ともに、「正規」の職については、比較的新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けておらず、収入の減少などを経験した割合も少ないが、父親・母親のどちらか、または、両方が「非正規」である場合は、「収入の減少」などの影響を受けている割合が比較的に高い。

図表 2-2-15 母親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(小学 5 年生):夫婦の職業組み合わせ別



※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、母親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

図表 2-2-16 母親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(中学 2 年生):夫婦の職業組み合わせ別



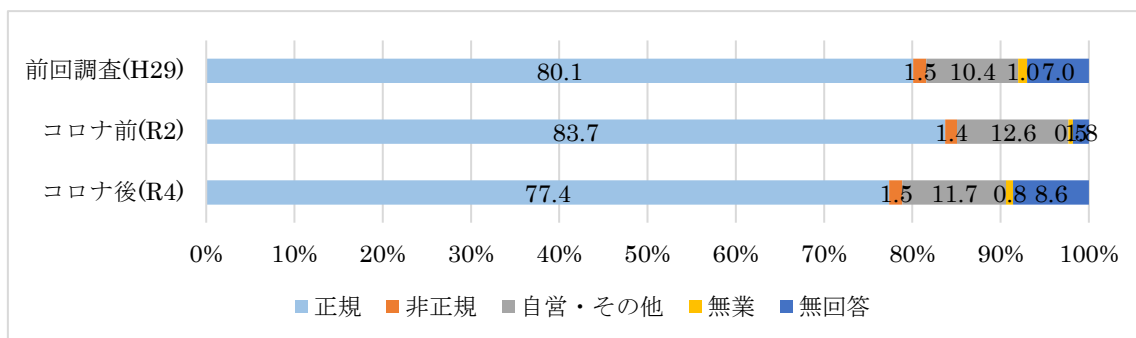
※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、母親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

(4)父親の就労状況

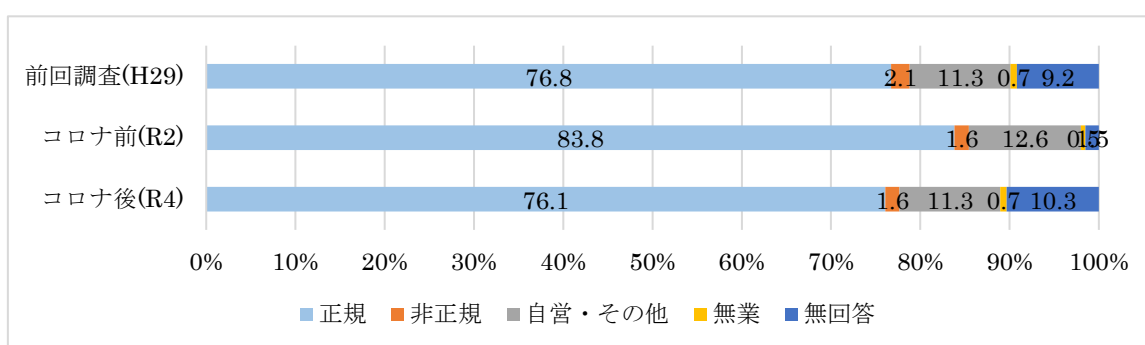
次に、父親の就労状況についてみる。小学 5 年生の父親全体としては、令和 2 年 3 月(コロナ前)については、〈正規〉が 83.7%、〈非正規〉が 1.4%、〈自営・その他〉が 12.6%、〈無業〉が 0.5%となっている。令和 4 年 5 月の時点では、〈正規〉が 77.4%、〈非正規〉が 1.5%、〈自営・その他〉が 11.7%、〈無業〉が 0.8%となっている。母親と同様に、令和 4 年 5 月時点での「無回答」が多くなっているが、これは調査票の設計上、令和 2 年 3 月の回答をした人のうち、令和 4 年 5 月の回答をしていない人が多いためと考えられ、「無回答」を除くと、大きな変化は見られない。なお、前回調査(H29)では〈正規〉が 80.1%、〈非正規〉が 1.5%、〈自営・その他〉が 10.4%、〈無業〉が 1.0%であった。

中学2年生の父親全体としては、令和 2 年 3 月においては、〈正規〉が 83.8%、〈非正規〉が 1.6%、〈自営・その他〉が 12.6%、〈無業〉が 0.5%となっている。令和 4 年 5 月の時点では、〈正規〉が 76.1%、〈非正規〉が 1.6%、〈自営・その他〉が 11.3%、〈無業〉が 0.7%となっている。なお、前回調査(H29)では〈正規〉が 76.8%、〈非正規〉が 2.1%、〈自営・その他〉が 11.3%、〈無業〉が 0.7%であった。

図表 2-2-17 父親の就労状況(小学 5 年生)



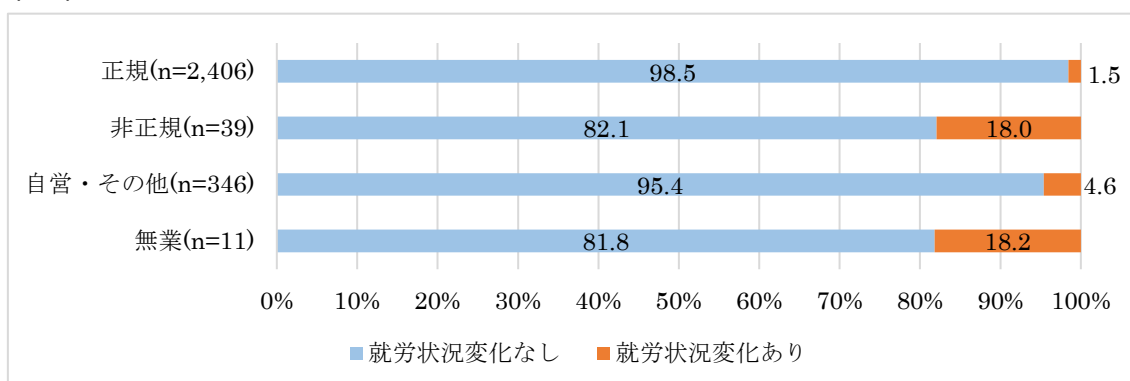
図表 2-2-18 父親の就労状況(中学 2 年生)



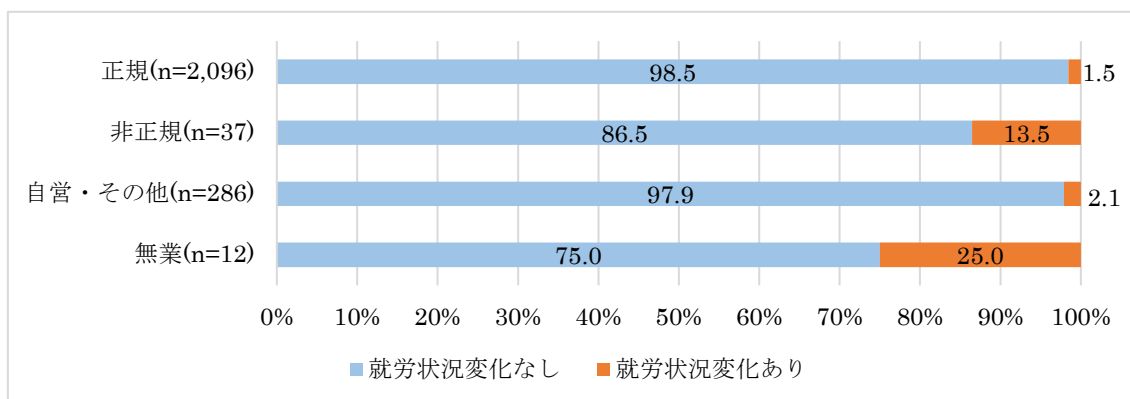
コロナ前後の職業の変化を見るために、コロナ前後で同じ就労状況を回答しているケースを〈就労状況変化なし〉、異なる就労状況を回答しているケースを〈就労状況変化あり〉として、その割合をコロナ前の就労状況別に見る。

小学 5 年生・中学 2 年生ともに、〈非正規〉〈無業〉の就労状況が変化した割合が大きいのが、該当者数は少ない。〈正規〉の就労状況が変化した割合は小学 5 年生・中学 2 年生ともに 1.5%である。〈自営・その他〉の就労状況が変化した割合は、小学 5 年生の父親が 4.6%、中学 2 年生の父親が 2.1%であった。これらの、割合の差は統計的に有意であった。

図表 2-2-19 コロナ前後の父親の就労状況の変化(小学 5 年生):コロナ前の就労状況別 (***)

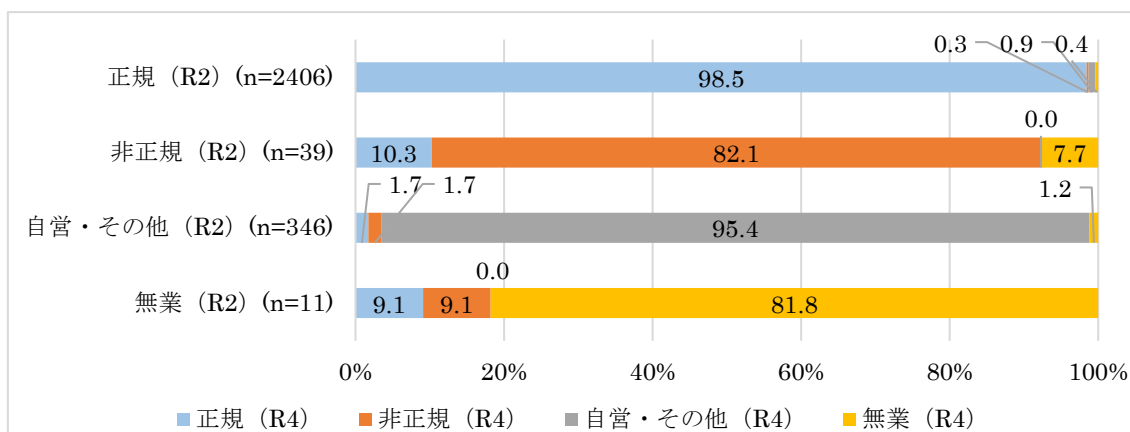


図表 2-2-20 コロナ前後の父親の就労状況の変化(中学 2 年生):コロナ前の就労状況別 (***)

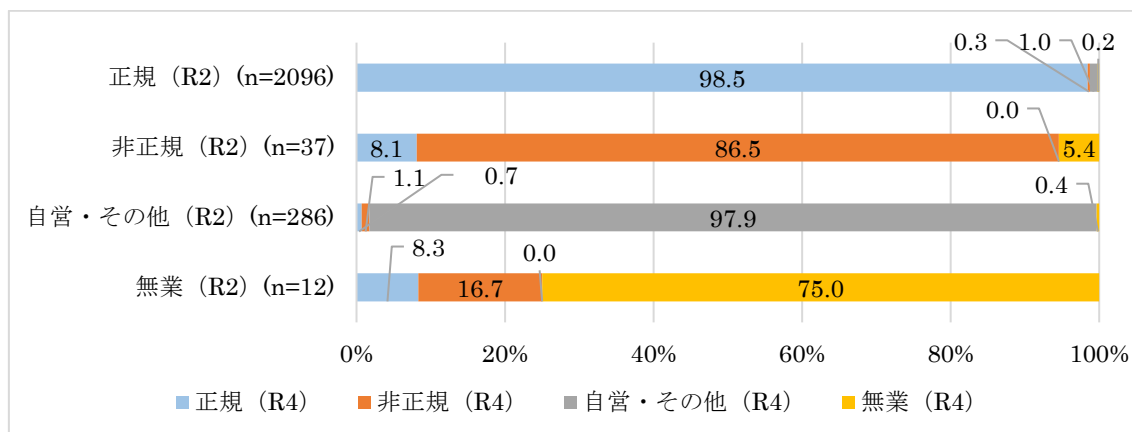


父親の就労状況がコロナ前後にかけてどのように変化したのかを確認する。なお、父親については〈非正規〉〈無業〉の人数が少ないため、コロナ前に〈正規〉〈自営・その他〉であったケースについてのみ触れる。小学 5 年生、中学 2 年生のいずれも、コロナ前に〈正規〉であった父親は、98.5%が就労状況の変化がなかった。コロナ前に〈自営・その他〉だった父親は、95%以上が就労状況の変化がなかった。

図表 2-2-21 コロナ後の父親の就労状況(小学 5 年生):コロナ前の父親の就労状況別



図表 2-2-22 コロナ後の父親の就労状況(中学 2 年生):コロナ前の父親の就労状況別

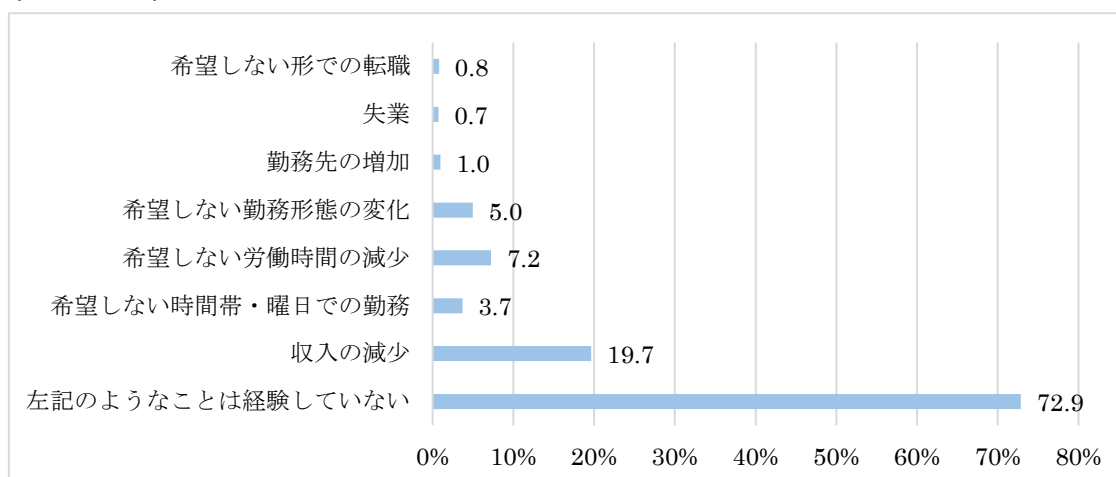


(5)父親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響

次に、保護者票の問 8-2「お子さんのお父さまは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で以下のようなことを経験しましたか。」について集計を行った。

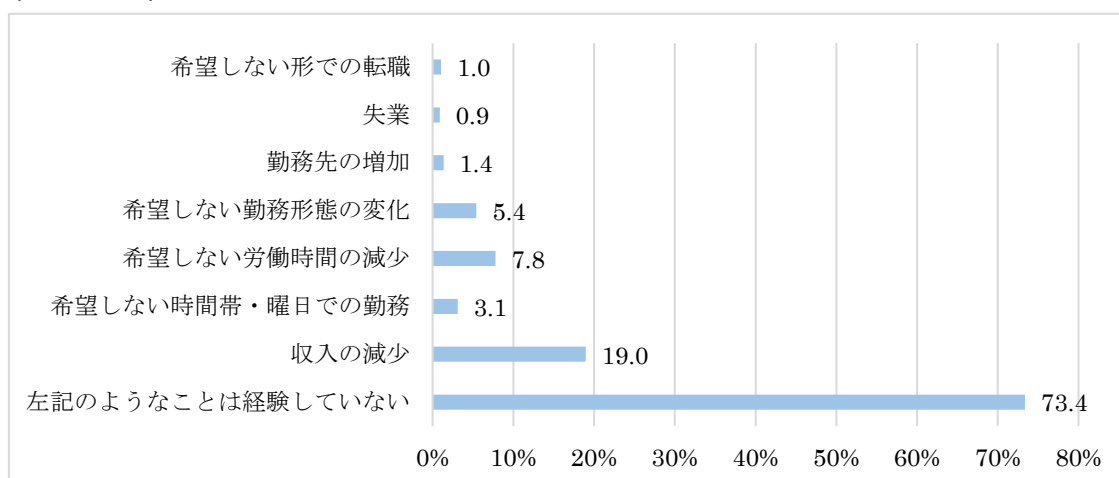
小学 5 年生・中学 2 年生ともに「左記のようなことは経験していない」の割合がもっとも高く、約 7 割ある。また、「収入の減少」が新型コロナウイルス感染拡大の影響の中でもっとも割合が高く、小学 5 年生・中学 2 年生ともに約 19%であった。次に割合が高い順に、「希望しない労働時間の減少」「希望しない勤務形態の変化」「希望しない時間帯・曜日での勤務」である。「希望しない形での転職」「失業」「勤務先の増加」は小学 5 年生・中学 2 年生ともに割合が低く、約 1%である。

図表 2-2-23 父親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(小学 5 年生):単純集計 (n=2545)



※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、父親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

図表 2-2-24 父親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(中学 2 年生):単純集計 (n=2215)

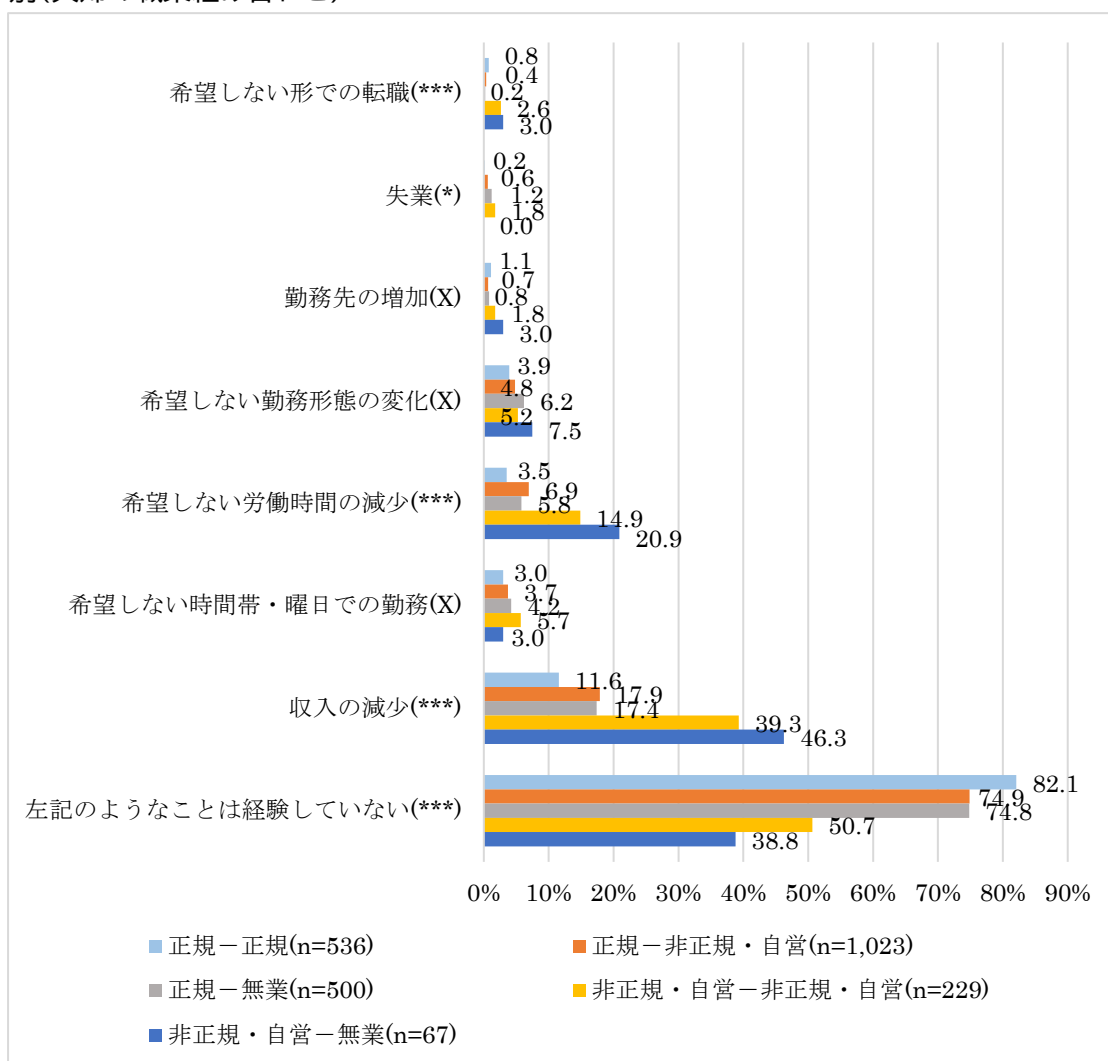


※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。また、父親が同居していないケース(単身赴任を除く)は除外した。

夫婦の職業組み合わせ別では、小学 5 年生では、「左記のようなことは経験していない」は〈正規—正規〉〈正規—非正規・自営〉〈正規—無業〉の割合が高く、〈非正規・自営—非正規・自営〉〈非正規・自営—無業〉の割合が低かった。「収入の減少」「希望しない労働時間の減少」「希望しない形での転職」は〈正規—正規〉〈正規—非正規・自営〉〈正規—無業〉の割合が低く、〈非正規・自営—非正規・自営〉〈非正規・自営—非正規・自営〉の割合が高かった。

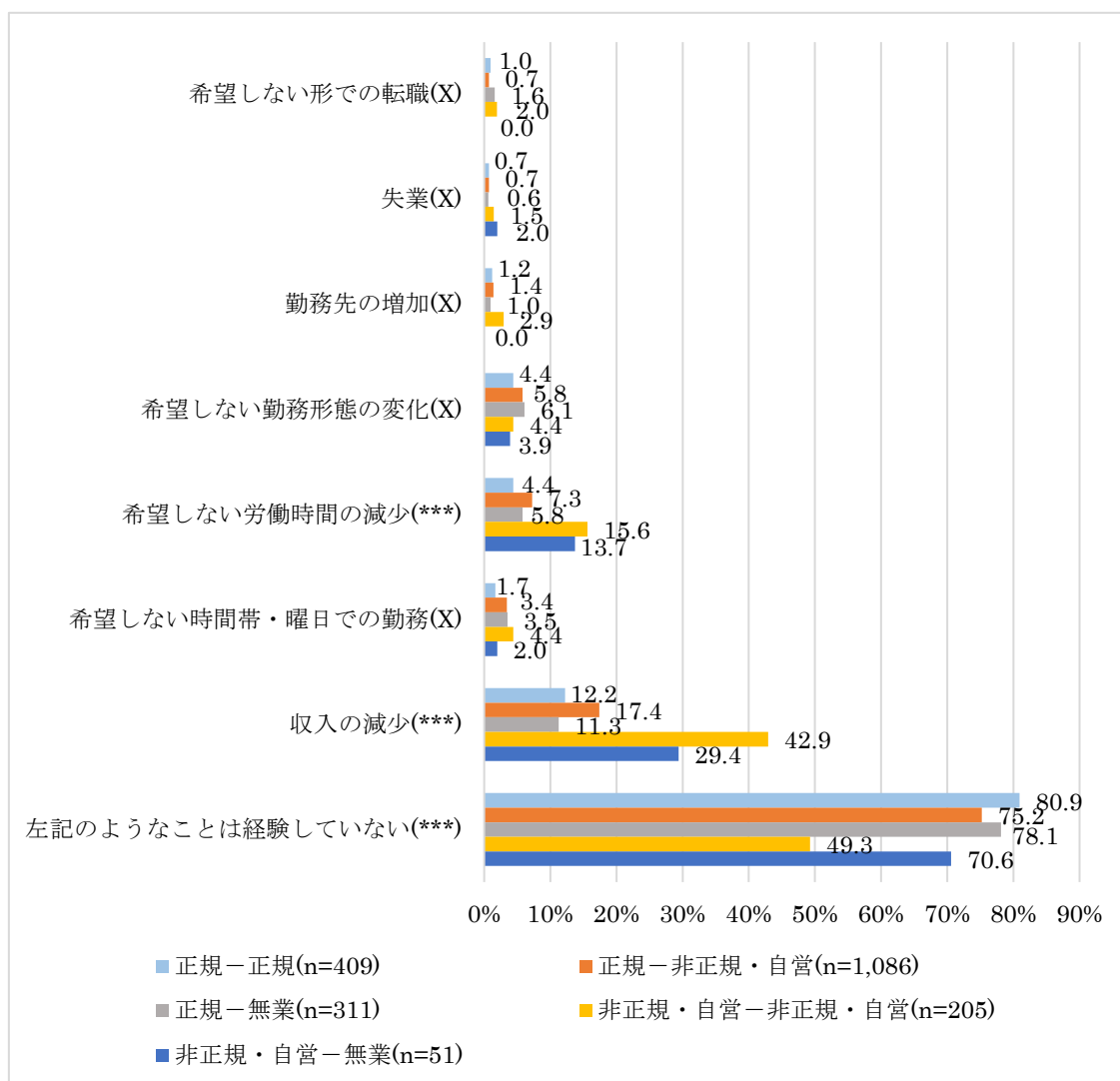
中学 2 年生では、「左記のようなことは経験していない」は〈正規—正規〉〈正規—非正規・自営〉〈正規—無業〉の割合が高く、〈非正規・自営—非正規・自営〉の割合が低かった。「収入の減少」「希望しない労働時間の減少」は〈正規—正規〉〈正規—非正規・自営〉〈正規—無業〉の割合が低く、〈非正規・自営—非正規・自営〉〈非正規・自営—非正規・自営〉の割合が高かった。

図表 2-2-25 父親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(小学5年生):世帯タイプ別(夫婦の職業組み合わせ)



※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。

図表 2-2-26 父親が経験した新型コロナウイルス感染拡大の影響(中学 2 年生):世帯タイプ別(夫婦の職業組み合わせ)



※無回答の割合が大きいため、欠損処理を行い、分母から無回答を除いた割合を記載している。